

2021年1月28日

コロナ禍と日本経済

東京大学名誉教授

学習院大学国際社会科学部教授

伊藤元重氏

ビジネスの現場を歩き、ミクロからマクロまで

広く経済を見通す「ウォーキング・エコノミスト」と称される伊藤元重先生。

新型コロナウイルスの感染拡大が、2021年の日本経済にどのように影響するのか。

また、中小企業のビジネスチャンスはどこにあるのか、ご講演いただきました。



「今年の日本経済が好転するかどうかは、コロナが収束するかどうかにかかっています」

金融危機は起きていないため、コロナが収まれば経済は早期に回復する可能性が高い。しかし、いつ収束するかわからない。つまり、経済は不確実性が高い状態だと伊藤先生。

コロナで加速したDX

コロナ禍は中小企業にとっては後ろ向きになる要因がたくさんあります。

ですが、ビジネスチャンスも生まれていると言います。

「コロナで何が起きたかという点、DX（デジタルトランスフォーメーション）の加速です。世界を見ればアメリカのGAF Aをはじめ中国、韓国、台湾と、デジタルが社会を形づくっています。

日本でも以前から、デジタル技術は生産性を向上させると期待されていますが、政府がいくらDXに取り組みと推進しても、効果はありませんでした。

しかし、今回のコロナ禍で、デジタルを活用しないと生き残れないという危機感が企業に芽生えたのだと思います」

企業がDXに取り組む際に重要なポイントは、「とにかくデジタルを使うこと」ではなく、お客さまの課題解決を提供する上で、「デジタルで何ができるか考えること」と提言します。

「建設機械を扱うコマツは、建設事業者が何に困っているかを考えて、

『機械を操作する技能やノウハウを持つ労働者不足』を解消するためICTを導入し、経験が浅い人でも操縦できたり、リモートで操作できる機械を開発しています」

グリーン投資に ビジネスチャンス!?

もう一つ、いまは「グリーン」と

2020年10月29日～31日

きらぼしトップスクール

宿泊研修「新潟企業視察」

「た例えば、欧州委員会がコロナで傷んだ経済を活性化させるために中心的対策として『欧州グリーンディール』を掲げたように、世界中で温暖化ガスの排出を抑える取り組みが行われています。」

なかには、一定の削減基準を満たしていない会社とは取引をしない、という例も出てきている」

環境に配慮した投資や取り組みを実践する企業が利益を上げ、環境問題に背を向ける企業は業績が下がる時代がすぐそこまで来ています。

「経営者は、『グリーン』のどこにビジネスチャンスがあるのかという視点で考えていただきたい。」

中小企業の場合、大規模なグリーン投資は難しいですが、同業他社よりも早く着手すれば、それが強みになる可能性もあります」

DX、グリーンのほかにもサブスクリプションなど、中小企業の実務に活きる学びの多い90分でした。

若手の経営者や後継者、経営幹部が、経営者のマインドやスキルを学ぶ「きらぼしトップスクール」。昨年10月、燕三条（新潟県燕市・三条市）で企業視察を行いました。

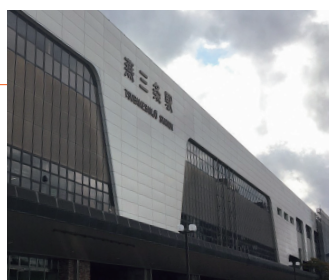
燕三条は刃物や金属洋食器で有名な江戸時代

から続く金物の町で、ものづくり企業が集積しています。地方衰退が叫ばれるなか、たくさん企業が工場をいつでも見学できるようにしたことで、世界から視察に訪れる地域になりました。

そんな燕三条の四つの企業を訪問してきました。創業約200年を誇る玉川堂をはじめ歴史ある企業が多く、話を伺った訪問先の企業の社長もトップスクール受講生と同じ「後継者」。課題や悩みは共通しており、受講生は少し先輩である社長のお話を熱心に聞いていました。

【受講生の言葉】

・諏訪田製作所の「離職率ゼロ」というパワーワードの裏付けを目の当たりにし、社員を大切にするとい



視察2日目：諏訪田製作所の工場見学で説明を熱心に聞く受講生。

う当たり前だが難しいことを実践していらつしやる姿に感動を覚えました。

・いずれも歴史のある会社で、伝統を継承することの大切さと、時代に合った経営への変革方法などを興味深く拝聴しました。

・地方の製造業ということから、人材難を想像しておりましたが、経営者のお話からも、見せていただいた現場からもそんな様子がなく、さらに若い人の多いことが大変印象に残りました。

訪問企業

- ハイサーブウエノ — 厨房機器メーカー
- 玉川堂 — 食器等銅器メーカー
- 永塚製作所 — 園芸用品メーカー
- 諏訪田製作所 — 爪切り等家庭用品メーカー（訪問順）